

男女共同参画社会を目指して



男女共同参画

ハーモニー広場

harmony hiroba

Let's challenge!

2015
Vol.67

harmony hiroba



P2-3

◆それぞれの男女共同参画
チャレンジストーリー

団体の取り組み

年をとってもいきいき働ける。
「コロッケの街」を支える女性の力。

龍ヶ崎市商工会女性部長 吉田京子さん

個人の取り組み

自身の体験をエッセンスに、介護
業界にキャリア構想とやりがいを。

株式会社和香紗代表 中村香代さん

事業所の取り組み

女性研究者にも働きやすい環境を。
国全体のボトムアップを牽引。

宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
男女共同参画室長 塩満典子さん

P4 ◆情報コーナー

【男女共同参画推進月間特集】

平成26年度「ハーモニー功劳賞」受賞者の皆さん

茨城県では、県民や事業者等の皆様に男女共同参画への理解と関心を深めていただくため、毎年11月を「男女共同参画推進月間」と定め、功績のあつた個人・団体・事業所の方々に「ハーモニー功劳賞」を贈呈しています。
平成26年度は、個人の部2名、「団体の部」2団体、「事業所の部」2事業所の計6名が選ばれ、昨年11月28日に開催された「ハーモニートップセミナー」の席上で、橋本知事より表彰状が授与されました。



サークル結
太田良子さん
(天子町)

団体の部

天子町の商店街の女性を中心としたメンバーでサークル結を結成。古民家を利用したカフェなど、主婦ならではの視点を生かした活動は、地域の発展に資する実践的な取り組みである。



特定非営利活動法人つくばフットボールクラブ
つくばF.C.レディーズ
青木梨沙さん(左)・藤井志保さん(右)
(つくば市)

ゲストティーチャープロジェクトやトップアスリート等によるジュニアアスリート支援などを行い、つくば市の子どもたちへスポーツ、サッカーの楽しさを伝えるなど、地域の活性化に取り組んでいる。



青木かを里さん
(永戸市)

個人の部

「茨城県医師会女性医師就業支援相談窓口」アドバイザーとして、出産・育児・離職後の再就職に不安を持つ女性医師の支援に尽力。医師が働きやすい環境づくりに取り組んでいる。



大崎信子さん
(阿見町)

阿見町男女共同参画社会推進会議委員長として、阿見町男女共同参画プランの策定に尽力し、阿見町の男女共同参画施策の推進に多大な貢献をしている。



子育てカフェCOPIE代表
岡崎智美さん
(ひたちなか市)

事業所の部

子育てママを応援するためのカフェを設立し、子育てママの交流空間、イベント、講習会等を企画・開催。スタッフの連れ出勤を推奨し、女性が働きやすい職場づくりを積極的に推進している。



東京フード株式会社
代表取締役社長
丹羽弘さん(つくば市)

「イクエン委員会」「女e n(じょえんかい)」など、育児と仕事の両立を応援するユニークな取り組みは、職場における男女共同参画の推進に資するものである。

それぞれの男女共同参画

チャレンジストーリー

Challenge Story

「チャレンジストーリー」では、個人・団体・事業所の皆さんのチャレンジをご紹介します。

起業、地域活動、働きやすい環境づくりなどさまざまな分野で広がる男女共同参画社会。それぞれの活動を参考に、皆さんも新しいチャレンジを始めてみてください。



揚げたてコロケが食べられるチャレンジ工房「どらすて」(龍ヶ崎コロケ会館)

働ける場があることで、スタッフは健康に過ごせています

団体の取り組み

Challenge Story 1

年をとってもいきいき働ける。「コロケの街」を支える女性の力。

龍ヶ崎市商工会女性部
龍ヶ崎まいんコロケ代表
吉田京子さん



龍ヶ崎市商工会女性部長の吉田京子さんは、龍ヶ崎市を「コロケの街」にした立役者。時代の変化から衰退していく商店街を再び活性化しようと模索する中、商店街の中心にあった銀行の移転を機に市へ働きかけて空き店舗を買い取ってもらい、全国でも珍しい公立のまんが図書館がオープン。ここへやってくる子どもたちに揚げたてのコロケを食べさせてあげようと、2000年に商工会女性部有志で売り始めたのが「まいんコロケ」のスタートでした。やがて子どもたちの口コミで行列ができるようになり、各種メ



ご当地グルメ「龍ヶ崎まいんコロケ」。ハート型のりんごコロケが人気

ディアにも取り上げられ全国のイベントに呼ばれるように。まいんコロケが起爆剤となり、2002年に商店街の有志による「コロケクラブ龍ヶ崎」が発足。2014年10月には「YAHOO! JAPAN 特集第2回ご当地メシ決定戦」で優勝するなど、コロケの街として確固たる地位を築き上げました。「何よりも嬉しいのは、私を含めたスタッフが生き生きと働けていること。まいんコロケのスタッフの平均年齢は70歳を超えていますが、こうして働ける場があることで心身共に健康に過ごすことができます。これからは『年をとっても元気に働ける街づくり』を目標に活動を広げていきたい」と夢が広がります。

個人
の取り組み

Challenge Story 2

自身の体験をエッセンスに、介護
業界にキャリア構想とやりがい

介護業界の
キャリア構想と
やりがいある
職場づくりが
目標です



株式会社
和香紗代表
中村香代さん

グループホームや宅老所、コンサルタント業、専門学校などを展開する株式会社和香紗の中村香代さん。異業種展開の根底には「介護分野の質の向上」を目指す強い思いがあります。上場企業で営業やマネジメントを経験、結婚・出産後に多忙を極める職場を離れ、子育てに専念。同時に老人保健施設に入所していた祖父母との時間を持つように。「認知症が進んだ祖父でしたが、話題が地元のこと」に及ぶと会話がしつかりする姿に、何とか地域に戻せないかとグループホームを設立しました。これ

が私の原点です」。2001年に会社を設立、2002年にグループホームをオープンさせ、祖母を呼び寄せました。その後、デイホームや居宅介護支援事業所などを開設する中で介護スタッフの質の向上に着目。会社員時代に培った経験を活かして介護分野に特化した人材育成や経営サポートを行う「わかさキャリアコンシェルジュ」を展開。介護分野にもキャリアパスを導入し質の向上に尽力しています。「介護業界はまだ歴史が浅く、しっかりとした人材育成が行われていませんでした。明確なキャリア構想と共にやりがいを持って働ける介護業界を目指して力を注いでいきたい」とコンサルや講演に全国を飛び回っています。



介護事業所は中村さんの原点。スタッフの質の高さが利用者に好評

Let's challenge!

先進的な環境だからこそ、女性研究者のニーズに対応していきます

事業所の取り組み

Challenge Story 3

女性研究者にも働きやすい環境を。国全体のボトムアップを牽引。



宇宙航空研究開発機構（JAXA）男女共同参画推進室長 塩満典子さん

はやぶさ2の打ち上げも記憶に新しい「宇宙航空研究開発機構（JAXA）」。平成25年度に文部科学省科学技術人材育成費補助金による女性研究者研究活動支援事業に採択され、男女共同参画推進室を設置。同室長の塩満典子さんにその取り組みを伺いました。「現在、日本における女性研究者の割合は諸外国と比較して最低レベル（平成25年時で約14・6%）です。さらにJAXAの場合は宇宙航空という先進性もあり、平成25年3月時で8・7%。採用比率は13・5%。これを各12%以上、18%以上にするという具体的な数値目標を掲げ、さらに教授職相当者の採用や子育て・介護に

よる離職率ゼロを目指しています」。業務のフィールドが海外のみならず「宇宙」に及ぶことから、24時間体制の衛星の監視などワーク・ライフ・バランスが取りにくい環境にあります。「だからこそ、JAXAで実現できれば他のどの組織でも実施可能。国全体のボトムアップを牽引していけるよう環境を整えていきたい」。平成24年には筑波宇宙センター内に「JAXAほしのご保育園」が開園。女性研究者のニーズに対応した支援と共に、未来の女性研究者のための「ロールモデルの見える化」に取り組んでいます。



筑波宇宙センター内にある「JAXAほしのご保育園」

このコーナーは、仕事や団体行動で役立つ情報や県の男女共同参画に関する話題を紹介しています。

平成26年度

ハーモニートップセミナーを開催しました!

Harmony Top Seminar



渡邊あゆみさんによる
基調講演

基調講演は、NHKアナウンサー・渡邊あゆみさんによる「女性が輝く社会をめざして」。男性の多い業界で働くご自身の経験談などを交え、「女性が輝く社会」の実現には、男女の差ではなく「個の差異」に柔軟に対応する社会が必要であること、男女が共に輝く社会に必要な要

県では、活力ある地域社会を構築するため、産業・経済など様々な分野において、女性がその能力を十分に発揮して活躍できる社会の実現に向けた取り組みを進めています。その一環として「男女共同参画推進月間」である昨年11月28日に、茨城県庁にて「ハーモニートップセミナー」を開催しました。

このセミナーは、市町村や事業者、団体など各界のトップの方々に、男女共同参画に対する認識を深めていただき、それぞれの地域や職場でさらなる推進を図っていただくためのもので、約380名の方々にご参加いただきました。



麓幸子さんによる
パネルディスカッション

素「3C」(カンファタブル、コミュニケーション、コーポラティブ)についてお話いただきました。また、日経BPヒット総合研究所長の執行役員・麓幸子さんをコーディネーターにお迎えし、「女性が活躍する組織はここが違う!」をテーマにパネルディスカッションを行いました。パネリストの(株)常陽銀行常務執行役員人事部長・横地裕昭さん、(有)モーハウス代表・光畑由佳さん、東京フード(株)総務部総務課長・藤田友紀さんがそれぞれ特色ある先進的事例を紹介。最後に麓さんより女性活躍のための5つのポイントを提言いただきました。

参加者からは「組織の中で女性を生かすためのポイントが参考になった」「もつと話が聞きたかった」などの声が寄せられたほか、交流会では、約150名の方々のご参加のもと、分野を超えた意見交換が行われ、和やかに交流していただきました。



研修の様子



ハーモニーフライトいばらき2014の研修員

県では、国内、海外における調査・研修を通して、国際的視野と指導力をもって政策・方針決定過程に参画できる地域の女性リーダーの育成を目的として、昭和57年度からハーモニーフライト事業を実施しています。

32回目となる今回は、昨年9月28日から10月5日までの8日間、長谷川典子リーダーと15名の研修員が、イギリスとベルギーを訪問し、男女共同参画、福祉教育、子育て、まちづくりについて調査・研修を行いました。

研修の成果は、2月13日(金)にレイクエコー(行方市)で開催される「茨城県女性団体連盟のつどい」の中で報告される予定です。

ハーモニー
フライト
いばらき
2014

